

男鹿市の一般会計等財務書類の概要（平成30年度決算）

貸借対照表

市の保有する資産がどれだけあり、その資産がどのような財源（負債、純資産）で形成されているかを表す財務書類です。

資産合計 822億円
(前年度比△22億円)

これまでに形成された道路や建物、基金・現金など、将来世代に引き継ぐもの。

【内訳】
固定資産 807億円
(前年度比△24億円)

(土地、道路、建物、有価証券、出資金、特定目的基金、長期延滞債権など)

流動資産 15億円
(前年度比+2億円)
(現金預金、未収金、財政調整基金など)

→ 流動資産のうち、現金預金5億円
(前年度比+1億円)

負債合計 173億円
(前年度比△4億円)

借入金（市債）や将来支払う職員の退職手当など、将来の世代が負担する債務。

【内訳】
固定負債 155億円
(前年度比△4億円)
(地方債、退職手当引当金など)

流動負債 18億円
(前年度比増減なし)
(1年以内償還予定地方債、賞与等引当金など)

純資産合計 649億円 ←
(前年度比△18億円)

【純資産＝資産－負債】

行政コスト計算書

資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用と、その行政サービスの直接の対価として得られた収益を対比させた財務書類です。

【内訳】

経常費用① 159億円 (前年度比△3億円)
人件費 27億円 (前年度比△2億円)
(職員の給与、退職手当など)
物件費等 56億円 (前年度比△1億円)
(物品購入費、維持管理費、減価償却費など)
その他の業務費用 1億円 (前年度比△1億円)
(利息の支払い、火災保険料、還付金など)

移転費用 75億円 (前年度比+1億円)
(社会保障経費、補助金、特別会計への繰出金など)

経常収益② 4億円 (前年度比増減なし)
(施設の使用料や証明手数料などの受益者負担)

純経常行政コスト(②-①) △155億円③

臨時利益-臨時損失 △2億円④
(臨時利益：資産の売却など
臨時損失：災害復旧費など)

純行政コスト(③+④) △157億円 ←

資金収支計算書

行政活動を、資金（現金）の流れから見たもので、3つの活動（業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支）ごとに表した財務書類です。

前年度末（平成29年度末）資金残高⑦ 4億円

当年度歳計資金増減額⑧ +1億円

【内訳】
業務活動収支 +10億円
(支出：人件費、物件費、社会保障給付費 収入：市税、地方交付税、国県支出金)
投資活動収支 △4億円
(支出：公共資産整備費、基金積立支出 収入：公共資産整備に充てた国県支出金、基金の取り崩しなど)
財務活動収支 △5億円
(支出：市債の償還 収入：市債の発行)

歳計外現金残高増減 ±0億円

→ 本年度末（平成30年度末）現金預金残高(⑦+⑧) 5億円

純資産変動計算書

貸借対照表の純資産が、どのように増減したかを表す財務書類です。

前年度末（平成29年度末）純資産残高⑤ 667億円

純資産変動額⑥ △18億円

【内訳】
純行政コスト △157億円 ←
税収等・国県等補助金・その他 139億円

→ 本年度末（平成30年度末）純資産残高(⑤+⑥) 649億円